

麻布小学校秋まつり2019

名探偵ダーロツク VS 怪盗マジヤミ

2019年9月21日、怪盗マジヤミが校長室のバウムクーヘンを盗み、挑戦状を残す。

「校長室のバウムクーヘンは頂戴した。なぜなら、バウムクーヘンは体にわるいからだ。こんなものがある限り、人類に未来はない。バウムクーヘンを取り戻したければ、以下のことをせよ。一、バウムクーヘンが体にわるくないことを証明せよ。二、子供たちをもっと笑顔にせよ。

「世界を健康で笑顔にする怪盗マジヤミ」

校長先生が校内放送をする。

「全校児童に連絡します。緊急事態です。先ほど、校長室のバウムクーヘンが盗まれました。全校児童は直ちに体育館に集合してください。」

校長先生は、名探偵ダーロックに問題の解決を依頼する。

全校児童、体育館に集合。

【名探偵ダーロック VS 怪盗マジヤミとその弟子ダーク・フリー】

ダーロック（登場）「私は名探偵ダーロック。私の手にかかれば、解決しない事件などない。」（挑戦状を読み上げる）

マジヤミ（ダーク・フリーとともに登場）「私は怪盗マジヤミ。華麗なる盗みのテクニクで、世界を健康で笑顔にするのが私の使命である。」

ダーロック（一歩踏み出して）「盗みは許さん。」

マジヤミ「また貴様が、ダーロック。だが今回はぜったいに私の勝ちだ。」

ダーロック「ハンサムでやさしい校長先生のために、ぜったいにバウムクーヘンを取り戻す。」

マジヤミ「それは許さん。なぜだかわかるか？バウムクーヘンは悪だからだ。バウムクーヘンには、砂糖が使われているだろ？砂糖は、子どもを肥満にし、大人を生体習慣病にする。糖尿病というおそろしい病気にもなる。ここにいるのは弟子のダーク・フリー。この筋肉をしてみる。」

ダーク・フリー「筋肉をつくるのに必要なのはプロテイン、つまりタンパク質です。わたくしダーク・フリーは、砂糖が大嫌いです。なぜなら、砂糖は筋肉の敵、脂肪をつくるからです。私がトレーニングのあとに飲むのはジュースではなく、プロテインドリンク。そのなかでも好きなのは、〇〇〇という会社の〇〇味の、」

マジヤミ(遮るように)「まあそんなところでいいだろう。聞いたか、ダーロック。バウムクーヘンは人類を不幸にするのだ。」

ダーロック「いや、ぜったいにそんなことはない。ハンサムで心やさしい校長先生のために、バウムクーヘンを取り戻さねばならない。麻布小学校のみんな、力を貸してください。バウムクーヘンが体にわるくないことを証明し、麻布小学校を笑顔でいっぱいにしてください。」

PTA1「名探偵ダーロックから、いまほど皆さんにミッションが与えられました。ミッションをコンプリートして、校長先生のバウムクーヘンを取り戻してください。その前に大切な説明があります。静かに聴きましょう。」

PTA2「ミッションには、グループで取り組みます。グループは、縦割り班を二つに分けたグループです。各グループには大人のサポーターが一人つきます。グループに別れたら、まずはグループリーダーを決めます。リーダーには、大人のサポーターから、ミッションの紙が与えられます。リーダーは、ミッションを受け取ったら、グループ全員に聞こえるように読み上げます。一つミッションをコンプリートすると、次のミッションが与えられます。ミッションは各グループに四つずつあります。(繰り返す)」

ダーク・フー「お願いがあります。マジヤミ様はとっても繊細な方なので、大きな物音が苦手です。廊下や階段はぜったいに静かに歩いてください。もし廊下や階段を走ったり、騒いだりした人がいたら、バウムクーヘンは戻ってきません。」

ダーロック「諸君の健闘を祈る。グッド・ラック！」

一同「グッド・ラック！」

「ミッションクリアしたあと

リーダーはステージへ
児童は腰を下ろす

PTA1「皆さん、おめでとう。ミッションコンプリートしましたね！リーダーの皆さんにお訊きします。多目的ホールでは、全員を笑顔にできましたか？」

PTA1「二階では思い切り遊べましたか？」

PTA1「砂糖は体にわるいものでしょうか？」

PTA2「最後に、教室で行われたゲームに勝利したグループのリーダーは一步前に出てマジックレターをみんなに見せてください。小さく書いてある数字の順にこちらから（ステージ向かって左から）並んでください。ここにバウムクーヘンのありがた書かれています。」

まじやみがのこらずたべた

ダーロック「怪盗マジヤミ！今度こそは許さん！」

完